

# 2019（令和元）年度 学校自己点検・自己評価

---

Y I C 看護福祉専門学校

学校教育法施行規則第 189 条及び第 190 条において専修学校及び各種学校についての準用が規定されており、専修学校・各種学校においては、自己評価の実施と評価結果の公表が義務化され、学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化されている。本校では、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めることを目的とし、学校自己点検・自己評価並びに学校関係者評価を実施している。

## I 2019年度の重点項目

### 1 学生募集

- (1) OC, ガイダンス等の対応マニュアル作成と個別性を活かした対応
- (2) 重点校に対しての募集活動の強化
- (3) 各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化

### 2 教育内容の充実

- (1) 高等教育の修学支援新制度機関要件確認申請に向けた準備
- (2) 新カリキュラム改正に向けた準備
  - ① 介護：カリキュラム編成の素案作成
  - ② 看護：カリキュラム改正の主旨を踏まえたカリキュラム評価
- (3) 国家試験対策の充実

### 3 学生支援体制の充実

- (1) 看護学科の学年担当制の導入と円滑な実施
- (2) キャリアサポート体制の充実
- (3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実

### 4 積極的な社会貢献活動

- (1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
- (2) 学生自治会を活用した地域住民との交流・ボランティア活動への参加

### 5 外部事業の確実な実施

- (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の企画・運営

## II 2019年度重点項目への取組

### 1 学生募集

- (1) OC, ガイダンス等の対応マニュアル作成と個別性を活かした対応
  - ・OCスタッフ（教員・学生）ミーティング：受け入れから個別クロージングまでの対応

- ・ガイダンス方法、奨学金等サポート制度学習会
- (2) 重点校に対しての募集活動の強化
  - ・在校生の成績等を参考に入学選抜に係る指定校の評定検討
  - ・高校訪問による募集活動、在校生・卒業生の現況説明
- (3) 各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化
  - ・看護学科OC：参加者が最も多い8月に2回強みのICLSの見学  
最も参加者の多い8月のOCは、学生による学科説明  
学生の協力を得て、毎回技術体験を実施  
土曜日の午前開催を基本  
日曜日開催を3回実施（5～7月）
  - ・介護福祉学科：福祉科のある高校の教諭、保護者、生徒への福祉の  
現状と学科説明（介護福祉士の魅力をアピール）  
YIC国際事業センター、日本語学校と連携した留学生  
生確保
  - ・全体：社会人入学生の確保・・学校説明会の開催をHPに掲載  
社会人特待生制度、給付金対象者サポート（看護）  
地域情報誌への掲載  
ハローワークでの説明会  
入学選抜試験選考料 5,000 円減免制度導入  
（対象：高校3年生、SOC（サマーオープンキャンパス）＋  
OC1回参加者）

## 2 教育内容の充実

- (1) 高等教育の修学支援新制度機関要件確認申請に向けた準備
  - ・令和元年7月申請、令和元年9月、山口県知事より、大学等における  
就学の支援に関する法律第7条第2項に基づく要件を満たしている  
ことの確認を受ける
- (2) 新カリキュラム改正に向けた準備
  - ① 介護：カリキュラム編成の素案作成
  - ② 看護：カリキュラム改正の主旨を踏まえたカリキュラム評価  
2019年8月から月1回カリキュラム会議（介護・看護）
- (4) 国家試験対策の充実
  - ・各学科、各学年の目標設定、学習計画立案・実施
  - ・模試結果が目標値に達していない学生のチューターによる個別指導

## 3 学生支援体制の充実

- (1) 看護学科の学年担当制の導入と円滑な実施

- ・ 1 学年 2 クラスを 3 人の教員で担当
  - ・ 計画的な個人面談（事前アンケート学生生活への意欲度・満足度を活用、生活・学習状況の把握）
- (2) キャリアサポート体制の充実
- ・ 在学期間を通して計画的なサポート
  - ・ 学生及び企業のニーズ把握（個別面談、企業訪問：卒業生就職先）
- (3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実
- ・ 週 1 回非常勤講師による日本語教育
  - ・ 学生・教員チューターによる学習支援
- 4 積極的な社会貢献活動
- (1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
- ・ 高校ガイダンス（職業理解、看護・介護の体験授業）
  - ・ 連携講座
  - ・ 高等学校教員対象説明会
- (2) 学生自治会を活用した地域住民との交流・ボランティア活動への参加
- ・ 地域自治会運営の交流会（いきいきサロン等）に参加
  - ・ オープンキャンパスと学校周辺自治会の方々が参加する介護予防体操、健康チェック同時開催、参加者全員で焼き芋やぜんざいを食べた。
- 5 外部事業の確実な実施
- (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の企画・運営
- ・ 4 月～ 1 2 月に渡り要項作成、受講者募集、延べ 2 2 回の研修の企画運営

### Ⅲ 2019 年度学校自己点検・自己評価

#### 1 学校自己点検・自己評価の実施

##### (1) 評価方法

①評価内容：全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価項目（資料）

9 個の大項目、15 個の中項目、123 個の小項目

項目の重要度ランク

A ランク：設置基準レベル（専修学校として必須）—31 項目

B ランク：全国専門学校経営研究会加盟校目標 —47 項目

C ランク：理想的な姿（努力目標） —45 項目

②評価基準：4：できている、3：ほぼできている、2：あまりできていない、1：できていない

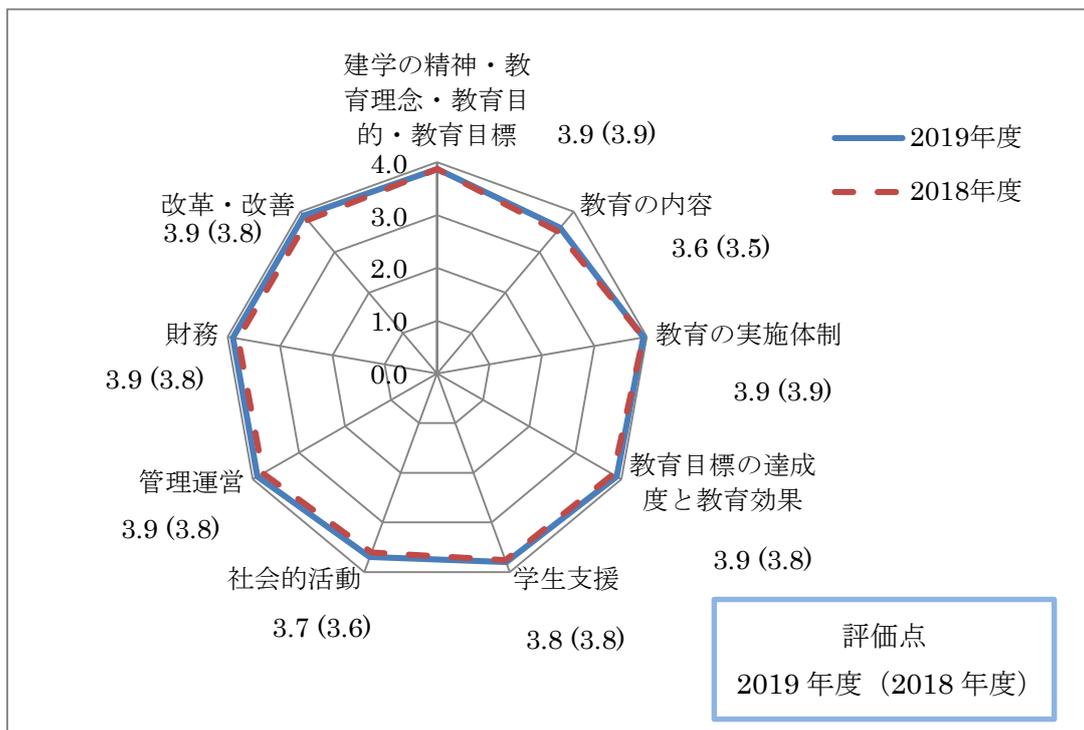
(2) 評価者 : 教職員全員

(3) 評価時期 : 2019年11月19日～12月18日

## 2 評価結果

(1) 大項目の評価結果 (昨年度比較)

図1 2018年度及び2019年度の評価結果



(2) 項目の重要度ランク (A～C) 別結果

Aランク : 大項目 1, 3, 5, 7, 8, 9 中 31 項目の評価平均 3.9

Bランク : すべての大項目中 47 項目の評価平均 3.9

Cランク : すべての大項目中 45 項目の評価平均 3.6

## 3 大項目の評価の根拠、課題と対策

(1) 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

<評価の根拠>

① 教育理念・目的・目標・育成人材像の明文化

職業教育機関として専修学校教育に必要な考え方や指針、内容等を盛り込んでいる。

- ・ 学校案内 (パンフレット)、ホームページ、学生便覧へ掲載している。
- ・ 各教室に校訓を掲示、学生や OC 等の来校者へ周知を図っている。
- ・ 経営計画書 (教職員手帳) に Y I C 学院の教育理念を掲載している。

## (2) 教育の内容

### <評価の根拠>

#### ① カリキュラム作成への取組

- ・カリキュラム編成は、学科内で協議後、運営会議、教育課程編成委員会を経て学内決裁を得ている。
- ・シラバスは入学時に配布し、各科目の初回授業時に説明、国家試験出題基準、学生の授業評価を基に毎年見直しを行い、授業内容の充実を図っている。

#### ② 教授学習プロセス改善への取組

- ・教員（常勤・非常勤）の授業評価アンケートを計画的に実施し、教員自身の内省、教育内容の見直しに役立てている。

#### ③ 業界ニーズに対応した付加的教育の取組

- ・実習前オリエンテーション、事前学習、自己評価・他者評価による学習の評価を実施し、目標到達度に応じて補習を実施している。
- ・ビジネスマナー、社会人基礎力育成講座の実施
- ・他の教育機関との連携講座（看護—介護—理学療法・作業療法）
- ・実習施設との定期的な会議の実施、卒業生就職先訪問

#### ④ 教員の資質の維持・向上に向けた取組

- ・教員のスキルアップを目指し、研修計画を基に自己研鑽に努め、授業改善に活用している。（Y I C研修・学内研修・専門研修）
- ・職員会議で研修内容を報告し、学習内容の共有化を図る
- ・年2回のY I C研修に加え内部研修「コーチング的コミュニケーションのアプローチ」を開催

### <課題と対策>

#### ① 課題：介護は2021年度、看護は2022年度にカリキュラム改正

対策：カリキュラム改正に向け、改正の主旨を理解し、教育効果の高いカリキュラム編成を行うために月1回カリキュラム検討会議を開催。

#### ② 課題：各科目の1コマの授業のシラバス作成ができていない科目もあるが、授業評価から授業開始時にねらいや行動目標の提示は概ねされている。

対策：学内教員においては、授業展開を含めたコマシラバスの作成に努める

#### ③ 課題：非常勤講師も含めすべての科目の授業評価を実施しているが、ほぼすべての科目の授業評価において、学生の教育に臨む態度「主体的な予習・復習」の結果が低い。

対策：価項目は、主体的学習と課題への取組を区別した項目とする。

主体的な学習の準備や学習のまとめが授業内容の理解につながる経験を積み重ねていけるように意図的に導く（学習意欲として評価していく）

- ④ 課題：評価が 3.5 未満の項目はすべてCランクではあるが、特に各学科の教育目標、育成人材像に向けた教授学習プロセスの改善（授業評価結果に基づく組織的な授業改善が求められる。

対策：年間を通した授業リフレクション、領域や学科を越えた授業コラボレーション等）への取り組み。

- ⑤ 課題：ビジネスマナーや就職実務を計画的に授業に取り入れているが、TPO に合わせた対応が身につくよう継続的な関りが必要である。

対策：社会人として必要なマナーやキャリア教育は、在学期間に体系的に進めていく。

### （3）教育の実施体制

<評価の根拠>

#### ① 教育環境の整備・活用

- ・組織図があり、コミュニケーションルートが明確に示されている。
- ・年間行事スケジュールを立案し、計画的な取組を行っている。
- ・環境整備点検を月1回計画的に実施している。
- ・防災・防火、感染症発生等に関する危機管理マニュアルを備え、防災規程に則り年1回の防火訓練を実施している。

### （4）教育目標の達成度と教育効果

<評価の根拠>

#### ① 教育目標、育成人材像に向けその達成への取り組みと評価

- ・就職希望者の就職内定率目標・実績 100%
- ・就職活動記録（インターンシップや見学会、説明会への参加報告、就職試験報告、内定報告を受けデータ入力）
- ・国家試験合格率目標 100%
- ・レクリエーション介護士2級取得
- ・退学率目標 3%以下
- ・HP公表データ：就職率と就職先、国家試験合格率、退学者数
- ・8月のホームカミングデー（看護・介護）の前に卒業生の就職先に連絡、就業状況を確認、卒業生及び職場の上司にアンケート調査を実施
- ・8月にホームカミングデー設定（看護は初回、介護は4回目）

<課題と対策>

- ① 課題：1月31日現在の退学率 2.3%

在籍学生数：平成 31 年 4 月当初 221 名

休学 7 名、退学 5 名（理由は身体的理由 1、進路変更 4）

対策：学年担当を窓口、相談しやすい環境を整える

総合支援部と連携した学生支援を行う

保護者も含め、相談や検討を十分行い、学生自身が納得した上で進路が決定できるように支援する

## （5）学生支援

<評価の根拠>

### ① 入学前の学生支援の整備

- ・学校案内パンフレットに育成人材像や目指す資格、学費や教材費、OC の日程や内容を掲載
- ・教員・学生の OC 担当スタッフミーティングを実施し、対応や説明内容の共有化
- ・学生募集要項に選抜方法を明示
- ・入学予定者への学習指導（入学前教育 1 月）
- ・入学前オリエンテーションの実施（3 月）

### ② 在学時の学生支援の整備

- ・キャリアコンサルタントの計画的な養成（複数名体制）
- ・クラス・学年担当中心に定期的な学生面談の実施と面談記録の共有
- ・外国人留学生の生活指導、日本語教育
- ・国家試験合格に向けた学習指導体制（各学科・各学年別）
- ・卒業前技術演習

### ③ 卒業後の学生支援の整備

- ・卒業生への就職相談
- ・卒業生の就職先訪問
- ・8 月ホームカミングデー（介護・看護）

<課題と対策>

① 課題：看護学科は 4 月から学年担当制を導入（各学年 3 人）学生個々の情報把握と共有化、タイムリーな学生支援

対策：主担当・副担当間、学年担当間、学科内の情報共有、連携を更に強化し、学生支援にあたる

② 課題：項目の重要度ランクは C であるが、全項目の評価の中で最も低い 3.2 である項目は「卒業生への講習・研修の実施」である。現在、希望者が参加可能なものとして、ICLS 講習の支援、自身の技術演習のための施設使用等である。

対策：卒業生の意見を参考に、ホームカミングデー等の機会を活用し

た研修企画等（今後、要検討）

## （6）社会的活動

＜評価の根拠＞

### ① 意図的・計画的・組織的な社会活動への取組

- ・学生は年間平均2～3回のボランティア活動に参加している。
- ・介護福祉学科は、定期的な自治会や高等学校福祉科との交流の機会がある。
- ・12月クリスマスOCに合わせ地域の自治会と協力して、介護予防体操や健康チェック、焼き芋大会を実施した（介護・看護）
- ・社会福祉協議会、高齢者保健福祉推進会議、障害者福祉推進会議、山口県介護福祉士会、山口県看護協会防府支部、介護認定審査会等の委員を務め、定期的な委員会に参加している。

＜課題と対策＞

### ① 課題：地域

対策：地域住民に向け、医療・福祉に関する情報発信や啓発活動を積極的に行い、看護や介護の仕事に対する理解に繋げる。

諸団体（介護福祉団体、社会福祉協議会、看護協会、町内会等）と連携を取り、教員・学生が協力して、看護・介護に関するイベントに参加する。

## （7）管理運営、（8）財務

＜評価の根拠＞

### ① 学校の管理運営体制の確立

- ・防災・防犯・非常時対策が危機管理マニュアルに明記されている。
- ・理事会・評議委員会、人事規程・賃金制度等、本部管理のものも多くあるが、本校においては、各部門代表者による経営状況や運営状況を協議する会議、管理職・各担当による学校運営会議、全職員による職員会議を毎月実施している。また、各学科会議を随時開催し、円滑な学科運営を心掛けている。
- ・外部委員を委嘱し、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、職業実践専門課程認定校としての責任が果たせるよう努力している。
- ・外部委員として、防府市障害者保健福祉推進協議会、防府市高齢者保健福祉推進会議、防府市地域総合支援協議会、防府市社会福祉事業団連絡会議、防府市社会福祉協議会評議委員会、介護福祉士会理事会、社会福祉研修事業運営委員会、等を承引している。

## （9）改革・改善

<評価の根拠>

① 自己点検・評価活動の実施体制が確立し、改革・改善のためのシステム構築

- ・学校教育法施行規則第 189 条及び第 190 条に基づき、Y I C 学院は「全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価表」による学校自己点検・自己評価を毎年実施している。
- ・自己点検・自己評価結果は、学校関係者評価委員会で報告、承認を得て、公表資料を作成している。また、委員からの意見を参考に次年度の重点項目を定め改善に向け組織的に取り組んでいる。
- ・自己点検・自己評価結果は、報告書にまとめ、HPで公表している。

<課題と対策>

- ① 課題：学校自己点検・自己評価結果は、運営委員会を経て職員会議で報告しているが、教職員個々の課題として周知する必要がある。
- 対策：次年度の重点項目については、今年度の結果報告内容から科内会議等で教職員が主体的に考える機会をもち、運営会議で検討する。

## 2020年度の重点項目（案）

### 1 学生募集

- (1) OC, ガイダンス等の対応マニュアル作成と個別性を活かした対応
- (2) 重点校に対しての募集活動の強化
- (3) 各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化

### 2 教育内容の充実

- ~~(1) 高等教育の修学支援新制度機関要件確認申請に向けた準備~~
- (2) 新カリキュラム改正に向けた準備
  - (ア) 介護：新カリキュラム編成の検討、申請に向けた準備
  - (イ) 看護：~~(カリキュラム改正の主旨を踏まえた)~~カリキュラム編成案の作成
- (3) 各学科・各学年の国家試験対策の計画的な実施

### 3 学生支援体制の充実

- (1) 看護学科の学年担当制の円滑な実施
- (2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート
- (3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実

### 4 積極的な社会貢献活動

- (1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
- (2) 学生自治会を活用した地域住民との交流・ボランティア活動への参加

### 5 外部事業・附帯事業の満足度の高い企画・運営

- (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の円滑な運営
- (2) 外部事業・附帯事業の前年度アンケート結果を活かした企画・運営